

次に、曲線  $C$  と 第一基本形式  $ds_f^2$  がそれぞれ symmetry, effective symmetry を持つ場合を考える。

Proposition 5.10

Remark 4.4(a) と対応

$f \in g_{**,\beta/2}^\omega(\mathbb{R}_3^2, \mathbb{R}^3, C)$  とし、次を仮定する。

(1)  $C$  は平面曲線ではなく、原点  $0$  において non-trivial symmetry  $T \in O(3)$  を持つ。

(2)  $ds_f^2$  は effective symmetry  $\varphi$  を持つ

↓ 特異曲線の向きを反転させる。

このとき、 $f$  の任意の異性体は

$\check{f}$ ,  $\check{f} \circ \varphi$ ,  $f \circ \varphi$

↓ 像を保つ

・曲線の向き反転

・等長変換

( $T$  は trivial symmetry ではない、鏡映ではない)

のいずれかと右同値である。さらに、

・  $T$  が正 (つまり  $T \in SO(3)$ ) なら、 $\check{f} = T \circ f \circ \varphi$  である。(つまり  $f$  と  $\check{f}$  は合同)

・  $T$  が負 (つまり  $T \notin SO(3)$ ) なら、 $\check{f}$  は  $f$  と 合同ではない。

Proof

$g := T \circ f \circ \varphi$  とおく。 Proposition 5.1 より  $f$  と  $\check{f}$  が合同。

$T$  が正 ( $T \in SO(3)$ ) の場合、Remark 4.4 より  $g$  は  $f$  の faithful isomer である。

※  $\varphi(u, t) = (-u, t)$

※ Remark 4.4(a) より、 $f_i(u, t) = T \circ f_i(-u, t) = T \circ f_i \circ \varphi(u, t) = g(u, t)$

$\rightarrow f_i = g$ 、 $f_0 = \check{f}$  と置けば、 $g$  は  $\check{f}$  の faithful isomer である。

この時の  $g$  は  $\check{f}$  の等長対応であるので、 $\check{f} = g = T \circ f \circ \varphi$  が成り立つ。

→  $f$  と  $\check{f}$  と  $f \circ \varphi$  と  $\check{f} \circ \varphi$  が右同値

$T$  が負 ( $T \notin SO(3)$ ) の場合、Proposition 5.1 より  $\check{f}$  は  $f$  と 合同ではない。 ■

$(f \text{ と } f \circ \varphi \text{ が右同値})$   
 $(\check{f} \text{ と } \check{f} \circ \varphi \text{ が右同値})$

Prop 5.1

$f$  と  $\check{f}$  が合同  $\Leftrightarrow \begin{cases} \cdot C \text{ が平面内にある 緒は } \\ \cdot C \text{ が正の non-trivial symmetry をもち、 } ds_f^2 \text{ が effective symmetry をもつ。 } \end{cases}$

Or X

かつ

## Theorem IV (再掲)

**Theorem IV.** Let  $f \in \mathcal{G}_{**,\frac{3}{2}}^{\omega}(\mathbf{R}_J^2, \mathbf{R}^3, C)$ . Then the number  $N_f$  of the congruence classes of the images of  $f, \check{f}, f_*$  and  $\check{f}_*$  satisfies the following properties:

- (1) If  $C$  has no non-trivial symmetries, and also  $ds_f^2$  has no symmetries, then  $N_f = 4$ ,  $\iff$
- (2) if not the case in (1), it holds that  $N_f \leq 2$ ,
- (3)  $N_f = 1$  if and only if  $\iff$ 
  - (a)  $C$  lies in a plane and has a non-trivial symmetry,
  - (b)  $C$  lies in a plane and  $ds_f^2$  has a symmetry, or
  - (c)  $C$  has a positive symmetry and  $ds_f^2$  also has a symmetry.

$f \in \mathcal{G}_{**,\frac{3}{2}}^{\omega}(\mathbf{R}_J^2, \mathbf{R}^3, C)$  とする.  $f, \check{f}, f_*, \check{f}_*$  の像が属する合同類の数を  $N_f$  とすると、次が成り立つ。

- (1)  $C$  が symmetry を持たず、 $ds_f^2$  も symmetry を持たない  $\iff N_f = 4$ .
- (2) 条件(1)を満たさない場合、 $N_f \leq 2$ . ( $N_f = 1, 2$ )
- (3)  $N_f = 1 \iff$  次のいずれか
  - (a) 曲線  $C$  が平面内にあり、かつ non-trivial symmetry を持つとき
  - (b) 曲線  $C$  が平面内にあり、かつ  $ds_f^2$  が symmetry を持つとき
  - (c) 曲線  $C$  が 正の symmetry を持ち、かつ  $ds_f^2$  も symmetry を持つとき  
 $\downarrow T \in SO(3)$

## Theorem IV の Proof

$\rightarrow T = Id$  の時  $\Rightarrow$

まず、曲線  $C$  が (non-trivial) symmetry を持たず、 $ds_f^2$  も symmetry を持たないと仮定する。

集合  $\{f, \check{f}, f_*, \check{f}_*\}$  のうち 2つが合同であるとき、 $f$  をその異性体に入れ替えて議論は変わらないので、 $f$  が次のいずれか

$$g \in \{\check{f}, f_*, \check{f}_*\}$$

$\because$  仮定より

と合同であると仮定して良い。Proposition 5により、 $f$  と  $\check{f}$  が合同になることは無いため。

$g = f_*$  または  $\check{f}_*$  としてよい。

$\nearrow f$  と  $T \circ g$  の像が一致

$\nearrow f$  と  $g$  の像が一致  $\iff f$  と  $g$  は右同値

今  $g$  が  $f$  と合同であると仮定する。すると Remark 0.5 により、 $C$  の non-trivial symmetry  $T \in O(3)$  と局所微分同相写像  $\varphi$  が存在して。

$$T \circ g \circ \varphi = f \quad \dots \textcircled{1}$$

を満たす。しかし仮定では

- $C$  は (non-trivial) symmetry を持たない  $\Rightarrow T = \text{Id}$
- $ds_f^2$  は symmetry を持たない  $\Rightarrow \varphi$  は曲線の向きを反転させない

であったため、 $\varphi = \text{Id}$  となり、 $T$  は non-trivial symmetry ではない。よって、①より  $f$  と  $g$  の曲線をたどる向きは一致する。しかし、実際には

$$U \mapsto f(u, 0) \quad \text{と} \quad U \mapsto f_*(u, 0) = \overset{\text{逆}}{f}_*(u, 0)$$

は互いに異なる (= 逆向きの) 向きで  $C$  をたどるので、①と矛盾する。つまり、 $f$  と  $g$  ( $= f_*$  または  $\overset{\times}{f}_*$ ) が合同であるという仮定が誤り。

$\therefore f$  は  $\overset{\times}{f}$ ,  $\overset{\times}{g}$  と合同ではないため、(1) が示された。  $(\Rightarrow)$

※  $\Leftarrow$  について

$N_f = 4$  と仮定する。また、「曲線  $C$  または  $ds_f^2$  が symmetry を持つ」と仮定する (背理法)。

(trivial symmetry の場合)  
Prop 5.1より。  
 $C$  が trivial symmetry  $S$  を持つ。  
 $f$  と  $\overset{\times}{f}$  が合同になる。  
 $\rightarrow N_f \leq 2$  となり、矛盾する。

- 曲線  $C$  に non-trivial symmetry  $T$  がある場合 ... Proposition 5.7 ( $N_f = 2$ ), 5.8 ( $N_f = 1$ ), 5.4 ( $N_f = 2$ )
- $ds_f^2$  に symmetry  $\varphi$  がある場合 ... Proposition 5.5 ( $N_f = 2$ ), 5.6 ( $N_f = 1$ ) + 5.10 ( $N_f = 1, 2$ )

しかし今は  $N_f = 4$  であるため、矛盾。よって、 $C$  にも  $ds_f^2$  にも symmetry は存在しない。

$C$  と  $ds_f^2$  の少なくともどちらか一方は symmetry を持つ.  $\Rightarrow N_f = 1$  または 2

$(N_f=2) (N_f=1) (N_f=1)$

(2) は Corollary 5.4, 5.6, 5.8 と Proposition 5.5, 5.7, 5.10 を。

「 $ds_f^2$  の任意の symmetry は effective である」と併せて用いることで得られる。

Corollary 3.16

Corollary 3.16. Let  $ds_f^2$  be a real analytic Kossowski metric as the first fundamental form of  $f \in \mathcal{G}_{*,3/2}^\omega(\mathbf{R}_J^2, \mathbf{R}^3, C)$ . Suppose that  $\varphi$  is a  $\odot$ -symmetry of  $ds_f^2$ , then it is effective and is an involution reversing the orientation of the singular curve.

Proposition	non-trivial symmetry $T$ を	effective symmetry $\varphi$ を	$N_f$ の値
5.4	持たない (trivial かつ $\text{Id}$ )	持たない	2
5.5	持たない (trivial かつ $\text{Id}$ )	持つ	2
5.6	持たない (trivial かつ $\text{Id}$ )	持つ	1
5.7	持つ	持たない	2
5.8	持つ	( $ds_f^2$ の言及なし?)	1
5.10	持つ	持つ	$\begin{cases} T \text{が正} \rightarrow 1 \\ T \text{が負} \rightarrow 2 \end{cases}$

最後に、 $N_f = 1$  となる場合を考える。

まず、C が平面内にあるとする。 → trivial symmetry を持つ場合。

(3)  $N_f = 1 \iff$  次のいずれか

(a) 曲線 C が平面内にあり、かつ non-trivial symmetry を持つとき

(b) 曲線 C が平面内にあり、かつ  $ds_f^2$  が symmetry を持つとき

(c) 曲線 C が正の symmetry を持ち、かつ  $ds_f^2$  も symmetry を持つとき

↓ TESO3

- もし C が non-trivial symmetry を持たず、 $ds_f^2$  にも symmetry が無ければ、Corollary 5.4 より  $N_f = 2$  が成立してしまう（矛盾）。

- したがって、C あるいは  $ds_f^2$  のどちらかには symmetry が存在する。

「C が non-trivial symmetry を持つ」が「 $ds_f^2$  が symmetry を持つ」の少なくとも一方を満たす？

↓ C が non-trivial symmetry を持つ場合？

一方で C が non-trivial symmetry を持たず、 $ds_f^2$  が symmetry  $\varphi$  を持つ場合、Corollary 3.16 より  $\varphi$  は effective となる。Corollary 5.6 より  $N_f = 1$  である。（(3)(a) に該当）

※ 実際、 $T_0$  を C を含む平面に関する鏡映、 $T_1$  を C の non-trivial symmetry とすると、 $T_1$  が正なら (b) が直ちに成立する。

↓  $T_1 \in SO(3)$

※ non-trivial symmetry は C の向きを反転させる  
 $\rightarrow \varphi(u, t) := (-u, t)$  を取ると、 $T_1 \circ f \circ \varphi(u, t) = f(u, t)$   
 $\therefore \varphi^* ds_f^2 = ds_f^2$  となる？

（Tが正は？）

$T_1$  が負の場合でも  $T_0 \circ T_1$  が positive symmetry となるので (b) が成立する。

↓  $T_1 \in O(3) \setminus SO(3)$

上の※と同じ議論で、 $\varphi$  の存在を示せる。

したがって、残るのは C がいがなる平面に含まれていない場合である。この時、 $N_f = 1$  は  $\dot{f}$  が  $f$  と合同であることを意味する。しかし、Proposition 5.1 より、C が平面曲線でない場合は (c) の場合に限られる。■

→ Proposition 5.10 で T が正の場合

$\dot{f}$  が  $f$  と合同である  $\iff$  (1) C が平面内にある または

等長対称

↓  $T \in O(3)$  に対して、 $T \circ f$  と  $\dot{f}$   $\overset{T=0}{\iff}$  (2) C が 正の non-trivial symmetry を持つ。

$f$  の第一基本形式  $ds_f^2$  が effective な対称性を持つ。

↓ Id でない  $\varphi$  が  $\varphi^* ds_f^2 = ds_f^2$  を満たし、 $f$  の特異曲線の向きを反転させる。

Proposition	non-trivial symmetry $T$ を	effective symmetry $\varphi$ を	$N_f$ の値	$C$ は平面曲線?
5.4	持たない ( <u>trivial</u> か $Id$ )	持たない	2	平面曲線
5.5	持たない ( $trivial$ か $Id$ )	持つ	2	平面曲線ではない
5.6	持たない ( $trivial$ か $Id$ )	持つ	1	平面曲線
5.7	持つ	持たない	2	平面曲線ではない
5.8	持つ	( $ds_f^2$ の言及なし?)	1	平面曲線
5.10	持つ	持つ	( $T$ が正 $\rightarrow 1$ $T$ が負 $\rightarrow 2$ )	平面曲線 ではない

4

*Proof of Theorem IV.* We suppose that  $C$  has no non-trivial symmetries, and also  $ds_f^2$  has no symmetries. If two of  $\{f, \check{f}, f_*, \check{f}_*\}$  are mutually congruent, replacing  $f$  by one of its isomers, we may assume that  $f$  is congruent to  $g$ , where  $g$  is one of  $\{\check{f}, f_*, \check{f}_*\}$ . By Proposition 5.1, we may assume that  $g = f_*$  or  $g = \check{f}_*$ . Suppose that  $g$  is congruent to  $f$ . Then (cf. Remark 0.5) there exist a non-trivial symmetry  $T \in O(3)$  of  $C$  and a local diffeomorphism  $\varphi$  such that

$$T \circ g \circ \varphi = f.$$

Since  $C$  has no non-trivial symmetries, and  $ds_f^2$  has also no symmetries,  $\varphi$  is the identity map and  $T$  is not a non-trivial symmetry. However, this contradicts the fact that  $u \mapsto f(u, 0)$  and  $u \mapsto f_*(u, 0) = \check{f}_*(u, 0)$  give mutually distinct orientations to  $C$ . So we obtained (1).

The assertion (2) follows from Corollaries 5.4, 5.6, 5.8 and Propositions 5.5, 5.7, and 5.10, by using the fact that any symmetries of  $ds_f^2$  are effective (cf. Corollary 3.16).

Finally, suppose that  $N_f = 1$ . We first consider the case that  $C$  lies in a plane. If  $C$  has no non-trivial symmetries and  $ds_f^2$  has also no symmetries, then  $N_f = 2$  holds by Corollary 5.4. So either  $C$  or  $ds_f^2$  has a symmetry. If  $C$  has a symmetry, then  $N_f = 1$  by Corollary 5.8 (this corresponds to the case (a)). On the other hand, if  $C$  has no non-trivial symmetries and  $ds_f^2$  also has a symmetry  $\varphi$ , then  $\varphi$  is effective (cf. Corollary 3.16). So, Corollary 5.6 yields that  $N_f = 1$ . (This corresponds to the case (b). In fact, we denote by  $T_0$  the reflection with respect to the plane containing  $C$ . We let  $T_1$  be a non-trivial symmetry of  $C$ . If  $T_1$  is positive, then (b) holds obviously. On the other hand, if  $T_1$  is negative, then  $T_0 \circ T_1$  is a positive symmetry and (b) holds.)

So we may assume that  $C$  does not lie in any planes. The assumption  $N_f = 1$  implies  $\check{f}$  must congruent to  $f$ . By Proposition 5.1, this holds only when (c) happens, since  $C$  does not lie in any planes.

→  $C$  が non-trivial symmetry を持つ場合?

□

「 $C$  が non-trivial symmetry を持つ」か「 $ds_f^2$  が symmetry を持つ」の少なくとも一方を満たす?

(「 $C$  が symmetry を持つ」と、trivial symmetry も OK になってしま?)

Section 5 の 日本語 +  
ついで 続き ある。

5